

第6次連結中期経営計画(2018-2022年度)の進捗

『Oil & New 石油のすべてを。次の「エネルギー」を。』をスローガンとした第6次連結中期経営計画（以下、第6次中計）は、2021年度末にて4年目が終わりました。中計期間中に大きな事業環境の変化があった一方、2021年度を中心とした好調な業績により、経営目標を1年前倒しで達成しました。第6次中計の最終年度となる2022年も引き続き"稼ぐ力"と"財務体質"の強化を図り、2023年度からの第7次連結中期経営計画の策定を進めていきます。

基本方針

Oil & New
石油のすべてを。次の「エネルギー」を。

前連結中計は「成長の基礎を固め、盤石な経営基盤を確立する5年」と位置づけ、石油精製・販売事業の収益力回復を筆頭に、供給部門の合理化など構造改善を進めてきました。第6次中計は、前連結中計で確立した収益基盤をベースとして、前連結中計の中心であった石油精製・販売（Oil）を第6次中計でも継続しながら、石油化学事業や風力発電事業への成長投資（New）を進め、脱化石を見込んだ事業ポートフォリオの拡充をめざしています。

Oil	New
高硫黄C重油の使用を規制するIMO※1規制等に対応しクリーンな船舶用燃料供給で先行する等、石油事業の収益力を強化 収益力を基盤とした財務体質の健全化	風力発電事業を始めとした次代の成長を担う投資を実施 事業活動を通じてSDGs※2実現に貢献

※1 国際海事機構（IMO）が、大気汚染防止策として、船舶が排出する硫黄酸化物（SOx）を減らすため導入した規制。2020年より船舶燃料に含まれる硫黄分が3.5%から0.5%まで引き下げられています。
※2 「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193カ国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

前連結中計の 主な取り組み	収益力の回復 競争力確保のため、合理化施策として坂出製油所を閉鎖し、3製油所体制へ移行 成長戦略の実行 ヘイル油田開発、バラキシレン装置、風力発電など大型成長投資を実施	前連結中計にて収益力を確保、 第6次中計のNewへの投資へ繋げる
------------------	---	-------------------------------------

経営目標の進捗

経営目標	実績				2022年度目標	達成状況 (2021年度末時点)
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		
経常利益 (在庫影響除き)	1,074億円	685億円	766億円	1,608億円	1,200億円以上	●
当期純利益	531億円	-282億円	859億円	1,389億円	500億円以上	●
フリー・キャッシュ・フロー	60億円	275億円	828億円	409億円	1,500億円以上 (2018-2022年度 5年間合計)	●
自己資本 (自己資本比率)	2,811億円 (16.5%)	2,398億円 (14.6%)	3,249億円 (19.0%)	4,562億円 (23.5%)	4,000億円以上 (20%以上)	●
ネットD/Eレシオ※	1.98倍	2.41倍	1.59倍	1.04倍	1.0～1.5倍	●
ROE	20.4%	-10.8%	30.4%	35.6%	10%以上	●
前提条件						
原油価格（ドバイ）（\$/B）	69	60	45	78	70	
為替（¥/\$）	111	109	106	112	110	

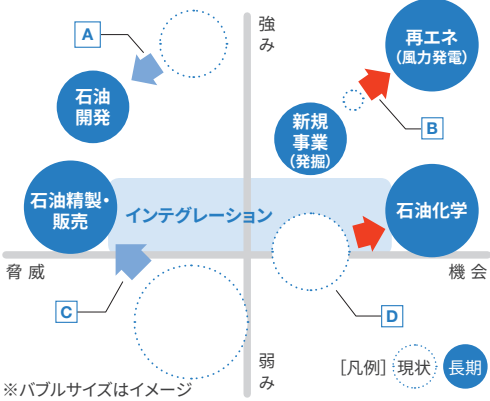
※ 2020年3月31日実行のハイブリッドローン300億円について、50%を資本とみなして算出



コスモエネルギーグループはサステナブル経営を実現します

当社グループは、エネルギー企業として人々の暮らしに安心・安全を提供するとともに、地球環境を守る責任を担っていることを自覚し、グループ理念に「私たちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざします。」と掲げています。当社グループは、事業から排出する温室効果ガス（GHG）を2050年までにネットゼロにする、カーボンネットゼロ宣言を長期ビジョンとして掲げています。

事業ポートフォリオの移行



第6次中計では石油関連事業の競争力強化と再生可能エネルギーへのシフトを基本方針としており、次期中計において事業ポートフォリオの移行をスピード感を持って進めていきます。

- 脱化石燃料の動きを睨み石油関連事業の競争力を強化しつつ積極的な投資により再生可能エネルギー事業を新たな柱とする
- 当社グループの持続可能な成長を通じてSDGs実現へ貢献する

A	● 2030年代以降にはピークアウトの可能性 ● コスト競争力のある事業構造が重要 第6次中計 ● 生産量維持と操業費低減に専念 長期 ● 当社の強みを活かし付加価値が得られる案件を志向
B	● 陸上は適地飽和も洋上風力は拡大 第6次中計 ● 陸上風力を最大化 ● 洋上風力へ進出 長期 ● 主力事業へ ● 洋上風力のリーディングカンパニーへ
C	● 国内需要は減退継続も、2030年頃までの相対的な競争力は改善 第6次中計 ● 収益油種に集中 ● 石化シナジーの強化 長期 ● 燃料油から石化原料へシフト
D	● 世界の人口増を背景に国際市場は拡大 ● エチレン生産では一定の競争力を保有 ● 石油精製からの生産シフトが可能 第6次中計 ● 国際市場における競争力の維持強化 ● 差別化商品の開発 ● 石油精製とのシナジー強化 長期 ● 燃料油から石化原料へシフト